

6月28日

殉教者主教イレナエウス

Ειρηναίος

(130頃～200頃)

～異端への反駁者～



「聖エイレナイオス」

人名辞典などでは、エイレーナイオスと表記される。彼は小アジアのスムルナ出身とされる。使徒ヨハネの弟子であった司教ポリカール(ポリュカルポス)の弟子であったという説があるが、その真偽のほどは定かではない。

彼は今のフランスにあたるガリアに行き、リヨンの司祭となる。177年ローマ皇帝が帝国全土にキリスト教の禁教令を出した際、イレナエウスはモンタノス派への寛容を求めてリヨンからローマへと派遣される。しかし、その間に大迫害がおこり、司教フォーティノスをはじめ多数の信者が殉教してしまう。リヨンに戻ったイレナエウスは、フォーティノスの遺言に従い、リヨンの司教となる。

彼は、司牧する教区内の信者と一致するために、当時多くのインテリが使っていた母国語のギリシア語ではなく、ケルト系の言葉を使ったという。

彼は多数の著書を記したが、原本が見つかっていないものも多い。「異端反駁」は全五巻にわたるもので、教父たちによる引用などしか見つかっていないが、彼が当時の異端、特にグノーシス主義との論争を行っていたことがうかがえる。

「異端反駁」の第一巻では、主要な論敵およびグノーシス主義の教説を説明し、第二巻ではそれを反駁、そして自らの神学を展開していく。

またイレナエウスは司教職の継承によって保証される使徒伝承を重視した。多くの教えを過去の教父たちから受け、そしてそれを後代に継承していく。「使徒たちの使信の説明」も彼によって書かれたものである。

190年に教皇ヴィクトル1世が復活祭の期日について、小アジアの教会を強制的に屈服させようとしたことがあった。その際、イレナエウスは調停役を買って出た。彼の名、イレナエウスには「平和」という意味があり、たとえ異端を唱えて教皇に従わない人であったとしても、柔和と寛大さをもって接するようにすすめていった。

彼は伝統的に殉教者とされるが、場所や状況などはわかっていない。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者主教イレナエウスに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。

アーメン